

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価 (3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領を基盤にクリエイティブスクールの特徴を融合した新しい教育課程を確立する。 ②生徒が学ぶ楽しさを実感できるような授業方法を確立する。	①RT-21 ホップからの繋がりを意識し、より生徒同士の協働を図れるRT-21 ステップの教材を開発する。 ②総合的な探究の時間でできた一人一台パソコンの活用を、様々な教科に広げてゆく。	①毎回行う確認テスト等の結果を次の教材作成にフィードバックする。 ②発表の場面だけでなく、探究活動を設定する中で様々な使い方を教員間で研究し共有する。	①確認テストで生徒の躓きを把握する。さらに、毎時の振り返りの結果を次の教材に反映させる。 ②総合の発表以外で活用する場面を設定できたか。さらに利活用法を共有できたか。	①RT-21ステップでは、確認テストの内容をフィードバックして、回を追うごとに内容を改善できた。 ②情報化WG主催の研修会を通じて、各教員のスキルアップを図れた。	①RT-21ステップの改善方策を基に将来に繋がる教材を開発する。さらにその結果をRT-21ジャンプの改良に利用する。 ②各教科に広めているパソコン利活用方法をさらに共有できる仕組みを構築する。	①授業の中でできるようになったことを実感させることはとても大きなことであるし、他の教科でもこれを目指して欲しい。 ②一人1台端末を通じて幅をさらに広げて欲しい。	①RT-21 は適切な教材を作成し、使用することができた。92%の生徒が「学習が身についたことを実感した」と回答したことからも成果が表れている。 ②一人1台端末の取組は、教員向け説明会や一人一台端末使用月間を設定するなど、向上に向けて様々な仕掛けを行った。生徒端末の使用頻度は上がった。	①ICTの利活用については、新しいソフトを1年間使い、検証結果を踏まえて恒常的に利用するかを決定する。 ②RT-21 ジャンプは生徒の将来の人間形成に向けシフトした内容に発展させる。
2	生徒指導・支援	組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に向き合える環境を整える。	・交通安全及び自転車でのヘルメット着用を推進する。 ・学校行事の規模と内容をコロナ禍前のレベルに回復させる。 ・SMTにも学習支援(サポート)を担わせ、学習面での困り感も解消する。	・登下校指導や自転車点検でヘルメット着用や交通ルールの遵守について指導する。 ・行事内のセクションを増やして生徒がリーダーシップを発揮する場面をつくる。 ・SMTがRT-21を中心にサブも分担することで学習サポートを充実させる。	・交通事故の発生数やヘルメットの着用率 ・リーダーを経験した生徒の数およびその自己評価 ・SMTが授業に入った回数とその効果を生徒や教員の振り返りから確認する。	・交通事故は2件→4件と増えた。またヘルメット着用率は極めて低かった。 ・東翼祭の完全実施に際して生徒中心に動く組織に変えた。 ・SMTはRT-21の授業を中心に困り感がある生徒にサポートティーチャーとして支援を行った。教室に入れない生徒の話しを聴く業務もできた。	・安心・安全のためヘルメット着用を引き続き、積極的に促す。 ・地域貢献について生徒会が企画できるようにする。 ・担任や教科担当から概ね好評との意見が多かった。困り感がある生徒へ早めにアプローチできる仕組みを工夫する。	・SNSは便利である反面、言語能力の低下や危険を伴うことを教えていくことが必要である。 ・登下校のマナーの向上にさらに力を入れてほしい。 ・かながわサポートドッグはこれまで見えなかったものが見えるようになっていくことがわかった。さらに活用してほしい。	・交通事故に関しては大和警察署と連携して、交通安全指導を実施した。 ・SMTはRT-21の授業を中心に困り感がある生徒にサポートティーチャーとして支援を行い、教科担当者の負担軽減及び教室に入れない生徒の不安解消にも役立った	・6年度は大和警察署と連携した交通安全指導の回数を増やす。また、地域・自治会とも連携した交通安全指導の実施を目指す。 ・登下校のマナー向上については引き続き安全登下校指導で改善を図る。 ・担任や教科担当から概ね好評との意見が多かった。困り感がある生徒へ早めにアプローチできる仕組みを工夫する。
3	進路指導・支援	組織を機能的かつ急進的に動かすとともに、地域や外部機関との協働により生徒の自己実現をサポートし、自立できる力を育てる。	・生徒のニーズに合わせた多様な進路実現に対応する仕組みを整える。 ・外部機関をとの連携を深めさらに活用する。	・進路フェアを1回から2回に増やし進路に関する意識をより高める。 ・社会体験を発展的に解消し、新たに進路体験活動を実施する。	・生徒アンケートで進路に対する意識が高まったか確認する。 ・進路体験活動がスムーズに行えたかをアンケートで確認する。	・進路フェアでは82%の生徒が進路に対する意識が高まったと回答した。 ・進路体験活動では89%の生徒が進路に対する意識が高まったと回答した。	・外部機関との連携を強化し、より効果的な進路支援の機会とする。 ・進路体験活動について、インターシップや仕事のまなび場の参加者を増やす。	・アンケートからも体験して成長していくことが明らかになった。今後もぜひ続けてほしい。 ・生徒が希望する進路体験活動ができ、それが生きる力に繋がっていくと感じた。	・進路に関する行事により、生徒の進路に対する意識が高まった。 ・生徒が自分でプログラムを選べるよう、多様な内容の説明会等を開催することができた。	・外部機関を活用してより質の高い進路行事を開催し、生徒の進路実現を目指す。
4	地域等との協働	①保護者や地域との協働による開かれた学校づくりを確立する。 ②市との協働事業等に積極的に参加する。	①校外清掃等では生徒・PTA・地域と協働してよりよい環境づくりを目指す。 ②学校外のボランティア活動をコロナ禍前のレベルに回復させる。	①クリーンチャレンジなどで協働して校内・近隣・高齢者施設の環境整備を図る。 ②地域の行事に生徒ボランティアを派遣する。さらに派遣先を増やす。	①参加者数の増加率及び地域及び近隣の評価を高めたか。 ②ボランティア参加者数、充実度及び派遣先の評価	①生徒・保護者と協働してクリーンチャレンジを実施したが当日のキャンセルが多く個々の負担が増えてしまった。 ②大和市の行事にボランティアスタッフを派遣できた。	①部活に限定せず広く広報して参加者を増やせるかが課題。 ②大和市主催行事だけでなく、新たに地域の行事にも参加の輪を広げたい。	①クリーンチャレンジは生徒の様子が見えるため、ぜひ続けてほしい。 ②地域の祭りでぜひ交流できれば嬉しい。参加生徒の輪を広げてほしい。	①今年度も実施できたが、参加生徒数が少なく、今後の在り方を検討する時期にきている。 ②ボランティア参加の再スタートができた。今回を足掛かりの行政だけでなく町内会など地域の行事にも協力する。	①委員会の生徒も積極的に参加できるよう平日に開催することも検討する。 ②地域からのオファーも来るようになった。対応する生徒会組織をつくり、適切な働きかけで地域の期待に応える。ボランティア活動単位化の活用も検討する。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の整備と広報活動の充実に取り組み、開かれた学校づくりを進める。 ②安心・安全の学校づくりを基本に情報管理を徹底する等、事故不祥事ゼロとする。	①本校の教育活動を十分理解してもらうために学校説明会や個別相談会の充実を図る。 ②教職員が安心して働ける職場づくりを行い、相互理解から事故・不祥事を防ぐ。	①個別相談会や学校説明会の回数を増やす。全公立展を手始めに本校の魅力発信する。 ②衛生委員会などで環境改善のための方策を確認・実践する。	①個別相談及び学校説明会の参加者数及びアンケートによる良いという評価の割合 ②職場環境づくりはストレスチェックで評価及び検証を行う。	①個別相談会を7回に増やした。良いという評価は97%だった。 ②職員の同僚性の向上及び問題点の改善を図った。ストレスチェックの総合健康リスクは77と良い結果だった。	①中学校教員対象説明会の参加者を増やし、本校をさらに周知する。 ②総合健康リスク及び高ストレス者の割合が若干悪くなった。同僚性の向上や職場環境整備で改善を図る。	①体験授業を増やしていただくと理解の幅が広がり、やめる生徒も少なくなるのではないか。 ②働きやすい職場環境づくりも学校が良くなる一助になっていることがわかった。	①個別相談の回数を実質増やして、中学生及びその保護者の要望に応えることができた。X(旧ツイッター)の発信回数を大幅に増やし1,000フォロワーを獲得した。 ②ストレスチェックの総合健康リスクは2年連続で低い数値を示すなど良好な職場環境を維持している。	①中学校教員対象説明会の参加者を増やすよう周知の方法を改良する。また、その内容のさらなる充実及び積極的な学校情報の発信を行う。 ②風通しのよさと同僚性の向上に率先して取り組み、事故・不祥事のない職場をつくる。